

2 学期終業式 表彰式

12 月 24 日 (水)

インフルエンザもようやく本校では落ち着き、体育館での終業式・表彰式が行うことができました。



校長挨拶

みなさん、おはようございます。

2 学期の終業式を迎え、こうして全校生徒のみなさんの前で話ができることを、大変うれしく思います。2 学期は、一年の中で最も長く、そして最も多くの経験を積んだ学期だったのではないのでしょうか。授業、学校行事、部活動を通じて、進路について考え始めた人も増えてきたと思います。高校生活の中で、人と関わる時間が増えるほど、楽しいことと同時に、悩みや葛藤も増えてきているのではないのでしょうか。

今日は、そんな高校生活の中で、ぜひ心に留めておいてほしい「思いやりの心」について話をします。

思いやりとは、簡単に言えば「相手の立場に立って考えること」です。しかし実際には、それほど簡単ではありません。私たちはつい、自分の考えや感情を優先してしまいます。忙しいとき、余裕がないときほど、周りが見えなくなりがちです。

ここで、中国の思想家・孔子の言葉を紹介します。

おのれ ほつ ところ ひと ほどこ
「己の欲せざる所、人に施すことなかれ」

「自分がされて嫌なことを、他人にしてはいけない」という意味です。

とても当たり前のように聞こえますが、実行するのは簡単ではありません。

何気なく言った一言、軽い冗談のつもりの言葉が、相手を深く傷つけてしまうこともあります。
SNS やメッセージアプリでは、顔が見えない分、なおさら注意が必要です。

一方で、思いやりのある行動は、人の心を確実に支えます。

落ち込んでいる友人に「大丈夫？」と声をかけること。

意見が違って、相手の話を最後まで聞くこと。

誰かの努力を認め、ねぎらうこと。

そうした行動は、すぐに評価されなくても、人間関係の土台を作っていきます。

もう一つ、別の格言を紹介します。

「情けは人の為ならず」

この言葉の本当の意味は、「人にかけての思いやりは、巡り巡って自分に返ってくる」というものです。高校生活、そしてその先の社会生活において、人との信頼関係は何よりも大切です。

思いやりは、将来のみなさん自身を支える力になり、苦しいときに助けの手を差し伸べてくれる人が現れるものです。

ここで、冬休みにぜひ読んでほしい本を紹介します。

住野よる 著『君の臍臓をたべたい』です。

この作品は、命の有限さと、人と人との関わりを描いた小説です。派手な出来事が続くわけではありませんが、登場人物同士の何気ない会話や距離感の中に、「相手を思うとはどういうことか」が丁寧に描かれています。読後には、きっと身近な人との接し方を見つめ直したくなるはずです。

もう一冊紹介します。

東野圭吾 著『手紙』です。

罪を犯した兄を持つ弟の人生を通して、偏見や差別、そして人を思いやることの難しさが描かれています。「正しさ」と「思いやり」は必ずしも同じではない、という問いを、深く考えさせられる一冊です。

本を読むことは、他人の人生を疑似体験することです。自分とは違う立場、違う考え方に触れることで、思いやりの幅は確実に広がります。

明日から冬休みが始まります。少し立ち止まり、自分の2学期を振り返ってみてください。

誰かを思いやることができた場面。

逆に、できなかったと感じる場面。

どちらも、みなさんの成長の糧となります。

3学期、また一回り成長したみなさんに会えることを楽しみにしています。

どうかこの冬休み、思いやりの心を忘れず、充実した時間を過ごしてください。

『よいお年を』

各種表彰

男子バスケットボール部

陸上競技部

女子バレーボール部

柔道部

卓球部

水泳部

宇宙科学部

吹奏楽部

情報技術部

茶道部

商業学科

国語科

図書

山岳同好会

以上 14団体 39種の表彰を行いました。



みなさん輝かしい成績 おめでとうございます。

今後の活躍も期待し応援しますので、頑張ってください。

良い年をお迎えください